様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年５月３０日現在

機関番号：３４４２４
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００８年度　～２０１１年度
課題番号：２０５２０１９１
研究課題名（和文）　児童文学・絵本の創作・伝達に関わる実践的活動とその基礎となる作品分析の研究
研究課題名（英文）　A Study of Practical Activity and Basic Analysis on the Creation and the Transition of Children's Literature and Picture Books
研究代表者　香曽我部　秀幸（KOUSOKABE HIDEYUKI）
梅花女子大学心理こども学部・教授
研究者番号：７０４６０９４６

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：近・現代文学、児童文学、絵本、創作、読み聞かせ、こども、文庫活動、子育て支援

１．研究計画の概要

（１）児童文学・絵本は、こどもやその周辺のおとなにとって、創造力をはばたかせ、心を豊かにし、人間関係を密にすることに、大きな力を持っている。梅花女子大学文化表現学部児童文学科では、児童文学・絵本の各作品の内容を分析研究し、作品の理解を深める＜研究＞分野の授業に生かしている。またこれを基盤にしながら、物語や絵本を自由に＜創作＞し発表すること、こどもたちに＜伝達＞することを授業や課外活動で実践的に展開している。これらの授業や課外活動は、学生の感性、想像力、創造力、表現力、思考力を高めることに役立ち、また学生が現在そして将来関わるこどもたちのそれも豊かにしていくことができると思われる。

（２）以上の基本理念に基づき、本研究の代表者および分担者は、それぞれの専門分野、担当授業・課外活動に関わる分野において、基本となる学問分野の研究、授業・課外活動の教材・指導方法の開発、実戦を行うと共に、それらを分析して次の活動に生かすという研究を繰り返している。これらの実践活動をさらに充実させ、連携を取ることによって、児童文学・絵本の基礎研究、児童文学・絵本に関する教育の研究、こどもに関する基本研究を進め、学生の専門性を高めることが本研究の目的である。

（３）2010 年度からは、大学の改組に伴い、児童文学科はこども学科（幼児教育・保育コース、児童文学・絵本コース）へと改変された。児童文学科とこども学科の両方において、これまでの研究・教育の蓄積を生かしながら、さらに発展的に研究・教育活動をしているところである。なお、研究代表者および研究分担者は全員、両学科に所属している。

２．研究の進捗状況

進捗状況について、「創作・伝達に関わる実践的活動」と「作品分析の研究」に大別して記述する。

（１）創作・伝達に関わる実践的活動

①学生制作絵本展：毎年２，３回、学内・学外の会場にて開催
②児童文学・絵本作家による春季講演会：毎年５～７月、学内にて開催（2008 年度：岡田淳氏、2009 年度：みやざきひろかず氏、2010 年度：上橋菜穂子氏、2011 年度：鈴木まもる氏）
③絵本作家によるワークショップ：毎年夏～秋に学内にて開催（2008 年度：スズキコージ氏、2009 年度：長谷川義史氏、2010 年度：宮西達也氏、2011 年度：村上康成氏）
④児童文学関連・周辺領域の研究者による秋季講演会：毎年 11～12 月、学内にて開催（2008 年度：中川正文氏、2009 年度：横川寿美子氏、2010 年度：神宮輝夫氏、2011 年度（予定）：上遠恵子氏）
⑤学生スタッフによる「梅花おはなし便」が、大学近隣の子育て支援サークルや施設でおはなし会を実施（月１回程度）
⑥「児童文学ワークショップ」「伝承児童文学演習Ⅰ」などの授業において、箕面市を活動拠点とするＮＰＯ法人「人と本を紡ぐ会」の支援を得ながら「民話紙芝居」を創作
⑦「文庫活動の理論と演習」「絵本読み語りの理論と演習」などの授業において、幼稚園や小学校で文庫活動やおはなし会を実施

以上のような活動を行ってきた。

（２）作品分析の研究
「５．代表的な研究成果」で紹介するような図書や論文などとして作品分析の研究成果を発表してきた。

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。
（理由）
「創作・伝達に関わる実践的活動」は、２．において紹介したように、幅広くまた充実した内容となっている。一方、「作品分析の研究」に関しては、個々の研究成果は挙がっているものの、共同研究がもう少し進展することが望まれる。

４．今後の研究の推進方策
上述したように、より一層、共同研究に力を注ぎその成果を発表できるよう心がけたい。

５．　代表的な研究成果
〔雑誌論文〕（計 10 件）
(1)鵜野祐介「子守唄と昔話のポリフォニー－＜言霊＞と＜唄霊＞の復権に向けて－」、日本昔話学会『昔話　研究と資料』査読無、第 39 号、2011 年、5－15 頁。
(2)加藤康子「幼少期の頼光—明治合巻『頼光一代記』を軸に－」、『叢　草双紙の翻刻と研究』査読有、第 32 号、2011 年、151-167 頁。
(3)加藤康子「翻刻・合巻『四天王其源』」、『梅花女子大学心理こども学部紀要』査読無、2010 年、1－11 頁。
(4)藤井奈津子「教訓から機知へ－幼稚園絵本文庫の「反抗するこども」をテーマにしたプログラム実践－」、『梅花児童文学』査読無、第 18 号、2010 年、1－18 頁。
(5)鵜野祐介「民話紙芝居の制作と上演　－昔話伝承の新たな可能性を求めて－」、梅花女子大学児童文学・絵本センター編、私家版、『梅花女子大学児童文学・絵本センター研究成果報告書　子どもの本の森』、2009 年、23－39 頁。
(6)香曽我部秀幸「明治大正期の絵本・絵雑誌（大阪府国際児童文学館所蔵）に見る歴史英雄像」、『梅花女子大学児童文学・絵本センター研究成果報告書「子どもの本の森」』査読無、2009 年、1－22 頁。
(7)近藤眞理子「読書する女／誤読される女－*The Doctor's Wife* は Sensation Novel ではないのか？」、『梅花女子大学文化表現学部紀要』、査読無、第 6 号、2009 年、11－22 頁。
(8)畠山兆子「『小公女』再話の研究」、『梅花女子大学文化表現学部紀要』、査読無、第 6 号、2009 年、1－10 頁。
(9)近藤眞理子「子ども部屋へのまなざし－Rosy の場合」、『梅花女子大学文化表現学部紀要』、査読無、第 5 号、2008 年、45－56 頁。
(10)畠山兆子「物語の変容研究－再話「小公女セーラ」（1985）の場合」、『梅花女子大学文化表現学部紀要』、査読無、第 5 号、2008 年、33－44 頁。

〔学会発表〕（計３件）
(1)畠山兆子「2007 年度メディア環境アンケートの分析」、日本児童文学学会 2009 年度大会、2009 年 10 月 24 日、松山北星学園大学
(2)加藤康子「特集児童文学の研究の現在　江戸期絵草紙の魅力」、「国文学　言語と文芸の会」、2009 年 7 月 18 日、東京文化会館
(3)鵜野祐介「日本における〈語り手－聞き手〉問題の系譜－研究史の通覧－」、アジア民間説話学会第 10 回国際シンポジウム大会、2008 年 6 月 28 日、梅花女子大学

〔図書〕（計８件）
(1)藤井奈津子（矢野正・小川圭子編）、嵯峨野書院、『保育と環境』、2011 年、30－39 頁。
(2)鵜野祐介監修、落合美知子著、エイデル研究所、『子どもの心に灯をともすわらべうた－実践と理論－』2010 年、全 208 頁。
(3)畠山兆子（永井聖二・加藤理編）、学文社、『子ども社会シリーズ　６．消費社会と子どもの文化』、2010 年、90－103 頁。
(4)梅花女子大学児童文学・絵本センター編、私家版、『梅花女子大学児童文学・絵本センター研究成果報告書　子どもの本の森』、2009 年、全 133 頁。（香曽我部論文、鵜野論文を収載）
(5)鵜野祐介、昭和堂、『伝承児童文学と子どものコスモロジー　＜あわい＞との出会いと別れ』2009 年、全 239 頁。
(6)鵜野祐介、久山社、『子守唄の原像』2009 年、全 136 頁。
(7)香曽我部秀幸（三宅興子他との共編著）、翰林書房、『大正期の絵本・絵雑誌の研究　－少年のコレクションを通して－』、2009 年、全 369 頁。
(8)加藤康子・鵜野祐介編、私家版、『鼓－伝承児童文学・近代以前日本児童文学　研究と資料』第 4 号、2008 年、全 149 頁。

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）
○取得状況（計０件）

〔その他〕
・梅花女子大学児童文学・絵本センターHP
　http://www.baikaac.jp/~ehoncenter/